

予防接種各論

日本脳炎ワクチン未接種者への対応

日本脳炎ワクチン

宮崎千明

対応の実際

- 日本脳炎ワクチンの効果を確実にするためには、基礎免疫を完了させ、その後の追加接種で感染防御抗体を長期に維持する必要がある。未接種者(①)への対応は次のとおりである。

定期接種年齢内での接種の遅れ

- 定期接種年齢内で、標準的な接種期間を過ぎて接種していない者は、直ちに接種を始める。初回接種の1回目から28日(4週)以上間隔があいたときには直ちに2回目を接種する¹⁾。

定期接種年齢内での回数不足や接種間隔超過

- ②に示すように種々の状況が想定されるが^{2,3)}、基本的には最低3回の接種で基礎免疫と考え、その後に追加接種を加える。

- 初回接種1回のみで1年が経過した場合、1~4週間隔で2回接種する。または1回接種して1年後に追加する。

- 初回接種1回のみで数年経過した場合は1~4週間隔で2回接種する。

- 初回接種2回後に数年経過した場合には直ちに1回接種する。

定期接種年齢を超過した未接種者

- どの年齢でも、定期接種と同じ用量用法で直ちに接種を始める。

- 2回接種1年後に追加接種する。

- 近々海外渡航を控えている場合には、2回接種後の追加接種を1年待たずに2回接種後1か月以上あければ効果がある。

接種歴不明者

- 血清抗体価を調べる方法もあるが、基礎免疫から始めてもよい²⁾。

積極的勧奨の差し控え後の事態

- 2006年8月および2007年5月の結核感染症課長通知によれば、現在でも保護者への十分な説明と承諾があれば希望者には定期接種として第1期(6~90か月未満)、第2期(9~13歳未満)とも接種できるとしており、接種希望を拒否しないようとしている。

- 新ワクチンの登場が遅れているので、西日本(とくに中国、四国、九州)では現行ワクチンの接種を勧めている医師が増えているが、ワクチン供給

① 未接種者の内訳

- 定期接種年齢内の未接種
- 第1期の接種を規定どおりに受けなかった場合(回数不足や接種間隔超過)
- 定期接種年齢を超過した未接種者
- 接種歴不明者
- 2005年5月の積極的勧奨の差し控え後の事態

② 第1期未接種者、接種不完全者に対する接種

基礎免疫（第1期初回2回（標準3歳）と第1期追加（標準4歳）接種1回）をまったく受けていない場合	初回接種から免疫を始め、翌年に追加接種を行う 90か月（7歳半）になるまでには第1期の接種が受けられるので、第1期初回または追加の接種を受けるように指導する 9歳以上12歳の者は第2期の接種が受けられるので、第1期追加から4～5年のあいだをあけて第2期を接種する
基礎免疫は受けたが、第2期の追加免疫を行わなかった場合	まず1回の追加免疫の接種を行い、その後4～5年ごとの追加免疫を受けるように勧める
第1期初回の接種間隔が4週以上になったとき	ワクチンの効果は4週をすぎた接種した場合も十分に認められるので、初回接種の2回目を接種し、翌年に追加接種をする（合計3回）
第1期の接種を規定どおりに受けなかった場合	1～4週の間隔で2回接種する（合計3回）が、初回接種として1回接種し翌年1回接種する（合計3回） あらためて初回接種として2回接種し、その翌年1回接種する（合計4回） この理由は、初回接種1回だけではその年の流行期にも発病防止に必要な抗体量を維持することは困難なことによる接種回数を増加しても副反応が増強することはないので、間隔があいた場合は、はじめから接種しても支ええない追加免疫として1回（合計3回）の接種を行うだけで免疫はまず確保される
接種歴の不明な人	中和抗体価を調べて接種するの一つの方法だが、日本脳炎ワクチンは繰り返しによる副反応の心配もないので、抗体価を調べることなく、基礎免疫から始めてよい

注) 7歳6か月以上9歳未満と13歳以上は任意接種となるので注意する。

(木村三生夫ほか、2006、p.261^{*)})

には限界がある。

- 全国で年間400万回以上だった接種数が数十万接種まで激減した^{*1}。
- 新ワクチンの早い登場を期待すると同時に、積極的勧奨の差し控えのあいだに定期接種年齢を超過した年齢層が増えているので、接種漏れ者への救済策が必要である⁴⁾。

■ 文献

- 1) 予防接種ガイドライン等検討委員会。予防接種ガイドライン2008年度版。東京：予防接種リサーチセンター、2008。p.32。
- 2) 木村三生夫ほか。日本脳炎。予防接種の手引き。第11版。東京：近代出版；2006。p.252-72。
- 3) 岡部信彦。多屋馨子。予防接種に関するQ&A集。東京：細菌製剤協会；2007。p.34-40。
- 4) 日本外小児科学会。日本脳炎ワクチン接種についての緊急アピール。
<http://www.gairai-shounika.jp/8appeal/JEappeal07.htm>

*1 福岡市の2006年度の第1期の予防接種率は15%、第2期は5%、2007年度は第1期38%、第2期12%と上昇した。

小児科臨床ピクシス 4
予防接種

2008年12月26日 初版第1刷発行 © [検印省略]

総編集——五十嵐 隆

専門編集——渡辺 博

発行者——平田 直

発行所——株式会社 中山書店
〒113-8666 東京都文京区白山1-25-14
TEL 03-3813-1100 (代表) 振替 00130-5-196565
<http://www.nakayamashoten.co.jp/>

本文デザイン——藤岡雅史(プロジェクト・エス)

装丁——花本浩一(麒麟三隻館)

カバー装画——安田みつえ

印刷・製本——中央印刷株式会社

Published by Nakayama Shoten Co., Ltd.

Printed in Japan

ISBN 978-4-521-73078-3

落丁・乱丁の場合はお取り替え致します

本書の複製権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は株式会社中山書店が保有します。

JCLS < 日本著作出版権管理システム委託出版物 >

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199, e-mail: info@jcls.co.jp) の許諾を得てください。
